

平成20年度

# 研究だより

南部小学校

H20. 12. 1

No.10

<兼 子>

第10回授業研究会（11月28日）ご苦労様でした。

4の2・算数科・「わり算マスターを目指せ！」（2けたでわるわり算の筆算）



多田 渉先生の授業から学ぶ

<成 果>

【仮説1について】

- ・問題に行きつくまでの自分たちがヤクルトの容器集めの活動を取り上げ、実物も提示しながら、あと609個集めなければいけないという設定が、自分たちの問題として感じることができ、意欲的に取り組むことができたのではないだろうか。
- ・既習の問題を取り上げた際、商の見当付けやたてる・かける・引く・おろすなどの確認を丁寧に行い、既習事項でも疑問に思っている子に対して、フィードバックしながら解き方を指導していったことは、普段の授業をする上で基本的なことであると感じた。

【仮説2について】

- ・「グループを作って考えよう」と指示しなくても、分からないことは友達に聞きたい、分からなかったら分かる人が教えてあげるということが、周りの人と自然にできていたのではないだろうか。

<課 題>

- ・課題に迫る際に、今まで習ったこととの違いを明らかにするのであるが、どこに注目させるか（商が30になりそうにないということなのか、商が2桁になりそうということなのか）を、子どものつぶやきの中から全体への課題へと広げていくことが必要なのではないだろうか。
- ・本時の課題を捉えさせるには、前時までの学習をレディネステストや復習などで基礎的なことをしっかりと身につけておかなければならないのではないだろうか。そのことが、課題を把握させるための時間短縮につながっていくのではないだろうか。
- ・解決の方法については子どもに発表させていく必要がある。小グループなどで話し合ったことを全体の場にどのように広げていくか、また算数的な用語を用い説明できる力、それを聞き取り分かる力をつけていく必要があるのではないだろうか。